



- ママ宅メモ① ママトークに盛り上がりします
- ママ宅メモ② 完成度が高い絶品スイーツ
- ママ宅メモ③ エピソードタグに想いを託す
- ママ宅メモ④ 子育ての相談をする「場」

ママの居場所づくり

「うわー、おいしそうだね」「きれいだねー」。

集まった約15人の皆さんが歓声を上げました。今日はエクスチェンジとスイーツの試食会。持ち寄られたスイーツは「トマトゼリー」「チーズケーキのブルベリー乗せ」「トマトムース＆ゼリー」「梅酵素ジュース」。全て地域で収穫された素材を生かしたママさん手作りの絶品スイーツ。皆で子育ての会話中心に盛り上がりします。そしてエクスチェンジ。エクスチェンジとは、着られなくなった洋服などを持ち寄り、皆でシェアしようという取り組み。自然や環境に優しいだけでなく、「エピソードタグ」と呼ぶ服への思い出や次に使ってもらう人へのメッセージを添付するのが大切なルールです。「お金ではない「想い」をやりとりするのだそうで、エピソードタグを見ながら服を選ぶ楽しみがあります。スイーツやエクスチェンジを通して、日頃の子育てへの不安や悩みを皆で共有する居場所となっています。

Heart Warming Story 2

私たちだけじゃない

たくさんの人に支えられて

Special Feature “だけじゃない” ママ宅

川根本町高齢者宅配サービス

Netsuke Family



ママがんばってね！
みんな応援してるよ

ママ宅メモ⑥ 根附さんご家族

- 洋充(ひろみつ)さん・パパ
- 清香(さやか)さん・ママ
- 誠真(せいま)くん・3歳
- 優菜(ゆうな)ちゃん・6カ月

ママ宅メモ⑦ パパの声

ねつけひろみつ
根附洋充さん(小長井区=30歳)

- 私は野外で働いていますが、子育てと家事を日々頑張ってくれていて感謝しています。夕飯の時に、今日の出来事や『ママ宅』の内容を話してくれます。楽しんでやってくれているので、これから子どもと一緒に応援したいですね。

ママ宅メモ⑧ 会員の声

ねつけさやか
根附清香さん(小長井区=31歳)

- しばらく子育てのために休んでいましたが、気分転換を兼ねて再度参加しています。『ママ宅』に出掛けると、お年寄りと話せることができるのがうれしいです。何より「ありがとう」と声を掛けられると本当に気持ちが和みますよ。

暮らしやすいまちへ
「深化」するために

『ママ宅』を続けるために、ママたちが直面している課題は「人員確保」と「家族の理解」。□□ミ頼りのスタッフ確保には限界があり、活動自体をママや家族に理解してもらえれば賛同してくれる人も多く、まずは居場所づくりと捉え、気軽に参加して欲しいと事務局の芹澤さんは話します。

『ママ宅』を通して困っているお年寄りを支援して元気づける。その逆にママたちは、子育ての気分転換だけでなく、社会貢献しているというプライドを醸成する。ママとお年寄りがウインウイン(双方がうまくいく)の関係で成り立っているのが『ママ宅』の仕組みだと言います。



Ayami Serizawa

ママ宅メモ⑨ ママ宅事務局の声

- 芹澤あやみさん(小長井区=37歳)
- 町内でも子育てに専念する中で、いろんな人とおしゃべりしたり、活動することを望んでいるお母さんは潜在的にたくさんいると思います。
- お年寄りの表情が明るくなる瞬間がとてもうれしく、続けてよかったなという気持ちになります。
- 是非、『ママ宅』をリフレッシュできる場と捉え、楽しんで参加してもらえたらうれしいですね。

ママ宅メモ⑩ 仕掛け人の声

はまたにともこ
濱谷友子さん(高郷区=52歳)

この町が大好きで、このままずっと幸せに暮らしていくために、できることから何でもやってみようという想いで、NPO法人かわね来風(らいふ)を立ち上げ、日々頑張っています。

『ママ宅』も資金調達や人員確保に苦勞していますが、心優しく頑張るママさんたちが育ってきてくれています。私たちが支援される側になっても安心して暮らしていけるように、この仕組みを継続させていかなければならないと考えています。地域のNPOとして、川根本町の明るい未来のために少しでも貢献できればうれしく思います。これからも『ママ宅』事業へ温かいご理解とご支援をよろしくお願い致します。

Tomoko Hamatani



ママ宅メモ⑪ ママさん募集しています!

- 先輩ママさんと一緒に『ママ宅』に出掛けてみませんか?まずはお気軽に連絡してください。
- ママ宅事務局 電話(56)1617

『ママ宅』から見える
「自治」の姿



経済産業省によると、全国の買い物弱者は約600万人いると推計しています。川根本町も例外ではありません。『ママ宅』の設立意義は、「川根本町に住み続けるために、今、わたしたちがやるべきこと」できることとはなんだろう」という課題解決を目的にスタートしています。まさに「自ら治める」という「自治」のあるべき姿です。

今回の取材から小さな事でも絶やすことなく継続していけば、いつかはその取り組みが広がり、大きな実を結ぶという可能性を感じました。「一人の百歩より、百人の一步」。『ママ宅』そしてまちづくりには、終わりはありません。